

文部科学大臣 萩生田光一 様  
文化庁長官 宮田亮平 様

私は、アートキュレーターとして現代美術のプロジェクトを企画するものです。過去に文化庁新進芸術家海外派遣制度に採用いただき、フランスにて研修の機会を得ました。文化庁の支持を得た研修の際には非常に多くの経験と出会いに恵まれたことに、深く感謝しています。その後イギリスを経てドイツに滞在する現在も日本の芸術文化事情に常に関心を抱いています。とくに今回のあいちトリエンナーレにおける展示の一つ「表現の不自由展、その後」展の中止には、驚きを持って受け取りました。

さらに驚いたことに、文化庁があいちトリエンナーレに対する補助金を中止すると発表されたことです。運営に対する不備があったのならば、文化庁の指導によって改善を目指すべきです。補助金の支給を決定した以上、文化庁にも円滑に事業を開催するための方策をトリエンナーレ事務局とともに探る責任があると考えます。

一度決定した補助金を、審査員への諮問や公開できるような経緯を経ずに、さらに言えば明確な理由なしに中止するという前例が作り出されると、今後のあらゆる事業の立ち上げと運営に出る影響は、計り知れません。アーティストやキュレーター、コーディネーター、事務局、あらゆる方面で芸術作品を創り出す現場で「文化庁に認められない」と思われる表現を、避けることになるでしょう。これを自己規制といいます。自己規制を促す権力は、検閲を発生させることと繋がっています。すなわち文化庁は、検閲をかける装置となります。

文化庁は、日本と私たちにつながる世界の文化を育成するための機関であると信じています。決して検閲することによって文化の芽を摘む組織ではないはずです。国民の税金の使途を、為政者の意向によって左右しないでください。

徳山（洪）由香  
2019年10月7日